

中学校国語教科書の学習内容を活用した授業 —意見文の場合—

前川 孝子

科目名：総合日本語

レベル：初級1・2／中級3・4・5／上級6・7・8

履修者数：15名

1. はじめに

本稿では、中学校国語教科書の学習内容を活用した意見文の授業について報告する。なお、当該授業は総合日本語2の書く活動での取り組みである。

書く活動では、1回目に説明文、2回目に意見文を学習する。意見文の授業回数は4回で、その目標は600～800字程度の字数と3段落以上の構成で書くことであった。授業の大枠は決められているが、①モデル文として何を取り扱うか、②ピア・レスポンスでは、作文についてどのようなことを話し合うか、③作文発表時のコメントはどのように行うか、④意見文の内容上の到達目標をどこに置くかについては、教師自身の裁量に任されていた。

そこで、平成24年（2012）発行の中学校国語2学年用採択教科書全6冊を用い、意見文の学習内容や学生同士の相互評価などを取り入れることにした。

中学校国語教科書の意見文の学習内容を利用することには、5つの利点を挙げることができる。a. 教師の裁量に任されていた4つの点が教科書に掲載されており、参考となる。b. 授業配分が当該授業の授業配分時間と概ね一致している。c. 意見文の構成が明示的である。d. 中学校国語の意見文では、意見文を書くこと自体に興味がない学生に対していかに学習意欲を持たせるかといった工夫が施されている。e. 日本語を母語とする読み手にとって論理展開が理解しやすい文章を日本語学習者が作成することに活かせると考えられる。

2. 授業の方針

上記のとおり教師の裁量に任されていた教授項目について、以下のような方針を立てた。

- ①論拠が明確に示された意見文を教師が例示する。
- ②学生同士で補助シートを用い互いの意見文を検討する。
- ③教師は具体的なコメントの例を示し、学生が作文発表時に無理なく意見を出しやすくする。
- ④教師は意見文の必要条件を明示し、学生がそれに沿った文章が書けることを到達目標とする。

そして、具体的には、以下のように授業を行った。

3. 授業で行った取り組み

1回目の授業では、モデル文を読むことになっていた。中学校国語教科書では、意見文

における適切な論拠を、最近のニュースや出来事、調査による情報、体験の何れかとしていたので、これにそって日本語学習者用教材の『みんなの日本語初級Ⅱ初級で読めるトピック 25』（2009）、『みんなの日本語初級第2版やさしい作文』（2014）からモデル文を選びリライトなどをした。

2回目の授業では、テーマに関するブレンストーミングを行うことになっていた。著者作成の資料と1回目のモデル文を使いながら、意見文の概念を示し、話し合いによって意見文の内容を決めてもらった。著者が作成した資料は国語教科書の内容にもとづき、意見文の特性や構成、文章表現などをまとめたものである。

3回目の授業では、ピア・レスポンスを行うことになっていた。著者が作成した補助シートを使い、提出された作文について、ピア・レスポンスを二人一組で行った。補助シートは、意見の明確さ・論拠の有無・論拠の適切さ・構成の適切さを検討するものである。

4回目の授業では、ピア・レスポンスにもとづいて再提出をしてもらった作文の発表を行ったり、コメントをし合ったりすることになっていた。実際の授業では、これまでに配布したプリント、2回目提出してもらったクラス全員の意見文、4回目の授業で行う学生同士のコメントを記入する用紙、コメント例という4種のものを綴じた冊子を作り、各人に配布した。そして、発表を行い、冊子にコメントを書いてもらうことにした。なお、コメント例は国語教科書を参考にリライトし適切に表現できるよう工夫したものである。

4. まとめ

定量的な分析は行っていないが、いくつか気付いた点を記すと、最初に提出された意見文で、モデル文よりも難しい内容のものを書いてきた学生が多く、その意味で、初期段階の指導は、おおむね良好だったと思う。一方、ピア・レスポンスは、作文を修正して提出できる学生とそうではない学生に分かれた。このような差異が出たことは、幾つかの要因が考えられるが、今後検討を重ねていきたい。教授者の立場から言えば、初級後半レベルの学生に意見文を書いてもらう場合の導入プロセスの枠組みを得ることが出来たと考える。

参考資料

- 牧野明子・沢田幸子・重川明美・田中よね・水野マリ子（2009）『みんなの日本語初級Ⅱ初級で読めるトピック 25』スリーエーネットワーク
- 門脇薫・西馬薫（2014）『みんなの日本語初級第2版やさしい作文』スリーエーネットワーク
- 学校図書（2012）『中学校国語 2』
- 教育出版（2012）『伝え合う言葉 中学国語 2』
- 三省堂（2012a）『中学生の国語二年』
- 三省堂（2012b）『中学生の国語—学びを広げる二年』
- 東京書籍（2012）『新しい国語 2』
- 光村図書出版（2012）『国語 2』

（まえがわ たかこ，早稲田大学日本語教育研究センター）